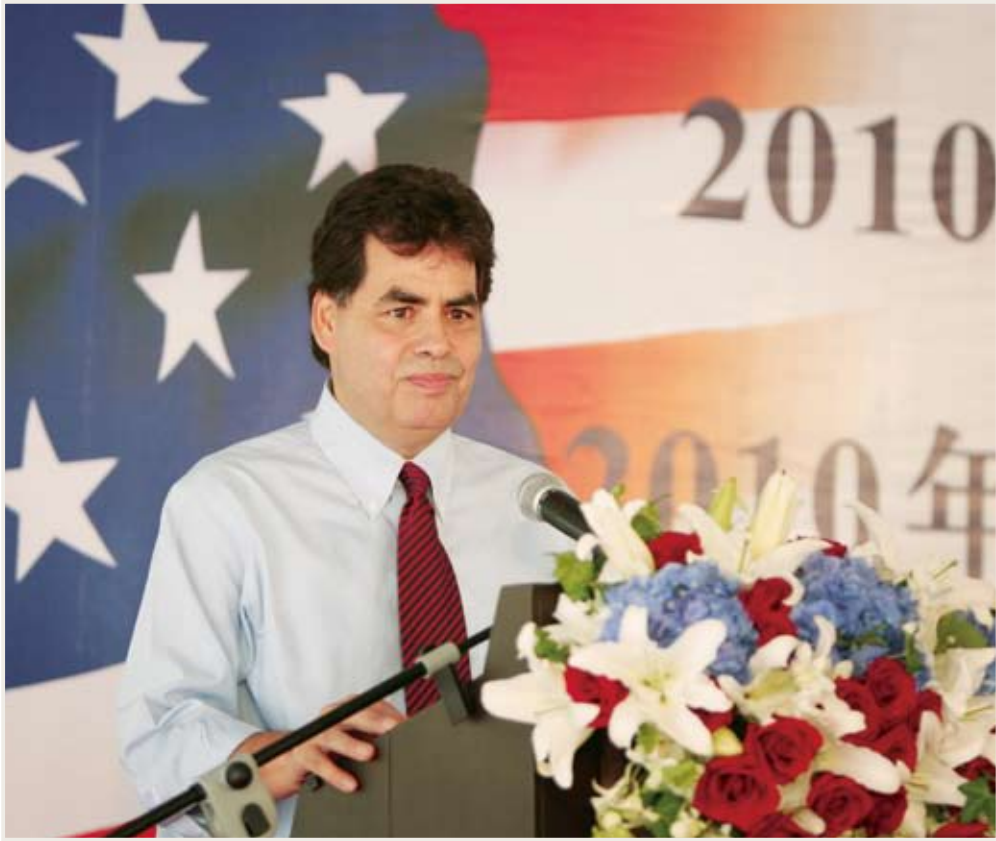


アメリカ館のテーマ、 セレブレーション2030を語る

上海万博アメリカ陳列区域コミッショナー、ジョゼ・ヴィラリール氏



ジョゼ・ヴィラリール氏

ジョゼ・ヴィラリール氏が初めて上海万博会場予定地を訪れたのは2008年11月である。そして、2009年7月、再び上海を訪れた彼は、一連のニュースを持ってきた。オバマ政権は彼を2010年上海万博アメリカ陳列区域のコミッショナーに任命したこと、アメリカ政府は上海万博局と出展契約を交わしたことで、アメリカ館が正式に着工したことなどだ。



アメリカ館のイメージ図

オリジナルのアメリカ文化

ジョゼ・ヴィラリール氏はテキサス州サンアントニオ市の弁護士であり、法律、ビジネス、非政府セクターに優れたバックグラウンドを持つ。現在、世界最大規模の法律事務所のひとつであるエイキン・ガンプのシニア・アドバイザーであり、数多くの個人企業や非営利機構の重役をも務める。

「私の友人であるヒラリー・クリントン国務長官がこのポジションを与えてくれたとき、非常に光栄に思い、感激して任命を受けた。これを私の国と国民を代表する機会だとも考えている」と、ヴィラリール氏は赴任の感想を述べた。

アメリカ陳列区域コミッショナーとして、ヴィラリール氏は自身の拔群なバックグラウンドと高い人望で上海万博の展覧チームを率い、アメリカ館の監督・管理責任者をも務める。ヴィラリール氏はア

「私はすでに準備万端だ。さあ、はじめよう」

1968年、ジョゼ・ヴィラリール氏のふるさとサンアントニオ市で万博が開催されたことがあり、そのメモリアル「タワーオブザアメリカ」は今も存在する。「タワーはいつも私たちに万博のすばらしさを思い出させてくれるのだ」と氏は言う。

1968年のサンアントニオ万博は、歴史的建築と交通において大きな創意があった。「タワーオブザアメリカ」は万博のテーマ建築であり、多元文化の融合を象徴した。当万博期間中に修復された歴史的建築や、カンファレンス・センターやテキサス文化会館などはサンアントニオ市の永遠の財産となった。ふるさとに起きたこれらの大きな変化がヴィラリール氏に万博へ常に関心を持たせることとなった。

アメリカ館の着工式には、アメリカ商務長官の駱家輝（ゲイリー・フェイ・ロック）氏や中国商務部（省）副部長の馬秀紅氏が出席した。ヴィラリール氏はまずヒラリー・クリントン国務長官からのお祝いの手紙を代読した。それは「アメリカは上海万博に参加できることを誇りに思っている。オバマ政権は全力を尽くしてあなた達の仕事をサポートする」というものだった。また、国務長官は自分のオフィスにおいてある上海万博のマスコットの



アメリカの上海万博参加が確定したことで、パビリオンの建設はいつそう高いレベルを目指すに違いないといい、また、すばらしい米国館が完成するように最善を尽くし、アメリカの最も優れたものを展示し、米中両国民とも誇りを感じるようにしたいと決心を語る。

「延べ7000万人の上海万博来場者はきつとオリジナルなアメリカ文化に引き付けられ、美しい都市生活を巡らすだろう」とヴィラリール氏は自信たっぷりと言った。この自信はアメリカ館の企画・準備が順調に進められていることから生まれたのだろう。「同時に、アメリカを含む世界各地の文化や科学技術理念も上海万博会場において十分に交流を果たし、多元文化の融合を促進して、人類社会の共栄を推し進めるに違いない」と氏は補って話した。

海宝に言及して、「すべてのホワイトハウスの職員と一緒にこのプロジェクトの進展を楽しみに見守りたい」と語ったという。このメッセージを読み上げた後、ヴィラリール氏は袖を巻き上げ、「私は袖を巻き上げた。準備ができた。仕事をはじめよう」と、ユーモアたっぷりに宣言した。

アメリカ館は敷地面積6000平方メートルで、投資額は合計約6100万米ドルである。「セレブレーション2030」をテーマに、アメリカの文化・伝統、民族精神を示し、中米双方がクリーン・エネルギー、再生エネルギーなどの分野での協力を促し、アメリカの文化、価値観、中国諸都市でのアメリカ企業の発展現状を展示する。

「アメリカ館の展示空間では、一人の中国系アメリカ人青年が来場者を案内して2030年のアメリカ都市を体験する。来場者はダイナミックで感動的なストーリーを通して、『持続可能な発展、チームワーク、ヘルシーな生活、努力と成功』という四つのコア・コンセプトを理解する。未来を語ることは科学の進歩、技術の発展、新製品のイノベーションのプロセスをも語るのだから。アメリカ館はすでに詳細な施行計画が立てられている。予算どおりのパビリオンを建設し、世界の人々とともに上海万博の開幕を迎えたいと、ジョゼ・ヴィラリール氏は意気込みを表明した。